

この月刊サワネを、お知り合いの方に見せてあげてください、きっと喜んでいただけます。

## a 『2020年日本はこうなる』

三菱UFJリサーチ&コンサルティング編、東洋経済、273頁 1600円+税 b 『これか

## らの日本の論点』日本経済新聞社編 日

本経済新聞出版社 387頁 1800円+税

来年はどんな年になるのでしょうか？書店で2020年の予測本を2冊買ってきました。ほんの少しだけご紹介します。暗くないものを選びました。

・**米国景気**：2020年は米国で大統領選挙がある。トランプ大統領は再選狙いであり、投票日となる11月まで経済を失速させるわけにはいかない。中国に対する圧力が続くと、輸入価格の上昇を通じた物価上昇につながる可能性がある。これによって消費者の不満が高まると再選に支障が出るため対中圧力はいったん和らぐだろう。(b)

・**欧州景気**：欧州中央銀行の新総裁ラガルド氏は、金融緩和に積極的で、利下げが見込まれる。(b)

・**中国経済**：米中貿易摩擦の影響で中国経済は停滞しているが、2019年夏ごろから景気に底入れ感が出はじめた。景気対策を受けて都市部での個人消費も盛り返し、規制緩和も手伝って不動産市況も一時に比べ改善している。日中関係についても、ここまで良好になったのは、過去に例がないと首相官邸の関係者が述べているほどだ。(b)

・**設備投資**：増加基調を維持する見込み。19年ですでにオリンピック関連需要は一巡しているが、交通、宿泊施設、通信設備などインフラ建設の需要が強く、再開発案件も増加する。加えて、業務効率化、情報化、人手不

足対策のための投資や、AI、IOT促進の研究開発投資も増加が見込まれる。景気を下支えすると期待される。(a)

・**輸出**：中国経済の回復、米国経済の維持などで輸出は緩やかに持ち直す。(a)

・**金利**：物価の伸び率の低迷、消費税増税の景気への悪影響、オリンピック・パラリンピック後の需要の一巡などの状況から、日銀の金融政策には大きな変更はなく、長期金利は低水準で続く。(a)

・**70歳までの雇用**：20年の通常国会に提出予定の高年齢者雇用安定法改正案に70歳までの雇用が努力義務として記載される予定。本法案は、生産年齢人口の減少に伴う人手不足が深刻であり、この問題への対応策の一つと位置づけられる。(a)

・**サブスクリプション**：かつて問屋不要論というのがあった。今は、小売不要論の声が一部でささやかれている。その背景のひとつが「サブスクリプション」だ。サブスクリプションとは、定期的に定額料金を支払ってサービスを継続利用するビジネスモデル。ネット通販のアマゾンが提供する「アマゾン・プライム」や動画配信の「Netflix」といったデジタル分野から、アパレルや自動車、さらにはコーヒーなどの「コト消費」にまで広がっている。サブスクリプションの利用により小売店にも売上増加の可能性がある。(b) 20年以降も新しいサービスが登場し、定着していく。(a)

・**大阪・関西万博**：25年に開催される。急ピッチで具体化が進められている。万博は集客イベントとして商業的に成功するため、経済的な影響は大きい。(a)

2020年、どんな年になるのでしょうか？年末年始で考えてみたいものです。

この月刊サワネを、お知り合いの方に見せてあげてください、きっと喜んでいただけます。

## フトン巻きのジロー

コインランドリーでふとんを丸洗いできるのだそうです。ふとんをぐるぐる巻いて、しっかり固定し、洗濯します。費用は、敷布団1枚当たり2千円～3千円程度で2時間ほどかかる。クリーニングに出すより短時間で、費用も安い。やっているのは、「フトン巻きのジロー株式会社」。沖縄で始まって、栃木に飛び火し、全国に展開しつつあります。

この「フトン巻きのジロー」と経営者について、いろいろなサイトから記事を抜き出しご紹介します。

★**沖縄から栃木に飛び火**：栃木で土木工事業を営む福田直樹氏が布団巻きの評判を聞いて沖縄に飛び、フトン巻きの創業者森下洋二郎氏と面談。意気投合しフランチャイズで全国展開することに決定。栃木に会社を設立した。

★**森下洋二郎氏（1977年生）**：慶応大学卒業後会社勤務を経て独立、複数の事業に失敗。失敗の経過をブログに発表。そのブログが認められ立命館大学の客員教授となる。新しい事業としてコインランドリーを選ぶ。コインランドリーを選んだのは、潜在需要は巨大なのに、利用者の立場に立って経営している店舗が少なかったからだ。「暗くて、汚くて、怖い」のだ。沖縄を選んだ理由は、全国で沖縄が特に「暗くて、汚くて、怖い」からだ。2016年東京から沖縄に移住し「フトン巻きのジロー」を開業。その後株式会社ランドリージローを設立しFC展開を開始。沖縄県で生まれた全国初のビジネスモデルとしてマスコミ各社の話題を集める。

★**福田直樹（1978年生）**：土木工事を営む板橋工業の三代目。高校卒業後板橋工業の取引先だった宇都宮市の工事会社に入社。2

9歳で家業を継ぐと拡大路線に転じ、5年あまりで20棟206戸の賃貸アパート・マンションを経営するまでになる。2018年に新規事業としてジローFCに加盟。栃木の店舗展開の経験を通じて、同社代表取締役に就任。

この「フトン巻き」おもしろいです。

フトンをコインランドリーで洗う。フトンもコインランドリーも当たり前、新規さもなければITの香りもありません。この二つを組み合わせて新規事業を作り、全国展開。当たり前のものの組み合わせ、思わず周りを見て探したくなりませんか？

全国展開のきっかけも面白い。同年代の二人の出会いで、やってみようということになったわけです。しかも新会社の代表取締役は、この事業を始めた人ではなく、栃木で沖縄のコインランドリーの話聞いて、そこに飛び込んでいった人です。よほど話があったのでしょう。そして、フトンの丸洗いの現場では、コインランドリーのスタッフが手伝ってくれるのです。コインランドリーといえば、お店にお店の人がいないのが当たり前とっていましたそこに店員さんがいて手伝ってくれるのです。

最後に同社のミッションを紹介します。コインランドリーのミッションとは思えません。

- ① 衣類洗いにとどまらずフトン洗いを浸透させ、快適な睡眠環境と住環境を創造する。
- ② アレルギーの原因ハウスダストを、フトン巻きによる敷布団洗いで除去。人の健康と笑顔に貢献する。
- ③ 常にお客様に気を配り、心地よい新たなコインランドリーサービスを構築する。

（参考：<https://www.msn.com>, [hanashoubu.com/](https://www.hanashoubu.com/), <https://laundryjiro.jp/company/>）